

全島民能力開発委員会 事業計画（案）

副理事長 丹生 富浩

全島民能力開発委員会 委員長 横山 大輔

現在の小豆島は、観光地として注目度が増加している反面、依然として人口減少という課題に直面しています。それに伴い仕事や地域活動を行う上で島民一人ひとりの担いは増えていきますが、島民は社会参画や能力開発に消極的になっています。そこで我々公益社団法人小豆島青年会議所（以下、小豆島J C）は関係人口が増えている今を小豆島が発展するためのチャンスと捉え、島民が能力を開発できる教育の場を創造する必要があります。

まずは、島民が効率的な時間の作り方を身につけるために、小豆島J Cメンバーを含めた次世代を担う島民が参加することができる研修事業を行い、日々のタイムマネジメントやワーク・ライフ・バランスの考え方について学びます。そして、社会参画に消極的な次世代層が自身の可能性と向き合い一歩踏み出す勇気を持つために、香川ブロック大会において、様々な分野で活躍している人財と連携した事業を行い、次世代層が自ら向上しようとする意識を醸成します。さらに、我々メンバーも含めた小豆島の次世代を担ってゆく世代が能力を開発し自分自身の可能性を見出すために、島内外の優秀な人財と連携した誰でも参加できる定期的なゼミナールを開講し、多様なスキルや背景を持った人々と交流し互いが研鑽できる場を作ります。また、前述の場を小豆島だからこそできる新たな教育の場にするために、定期的にゼミナールを行うための準備をすると共に外部移管できる基礎を整えます。そして、我々小豆島J Cの活動と瀬戸内島嶼部の魅力を島内外の人財に理解し、興味をもっていただくために、ホームページや新たなSNSを用いて情報を発信します。

継続的に島民を含む多様な人々が互いに交流し研鑽できる場があれば、自分自身の能力や意識を今以上に向上させる島民、まだ見ぬ自分自身の可能性を覚醒させる島民が増加していきます。そうすれば、ここ小豆島は世界に通用する人財を輩出し続ける島になります。

<事業計画>

1. 新たな教育の場作り事業の実施
2. 公式訪問例会・事業実施
3. 香川ブロック大会での事業実施
4. 情報発信
5. 例会及び総会の運営・設営（3月、6月、9月、10月、1月）
6. その他